2023年9月1日 第166号

....

発行:日本臨床検査技師連盟 発行責任者:滝野寿·深澤恵治 編集担当者:日技連事務局

日本臨床検査技師連盟ニュース

◇◆連盟ニュース◆◇

今号の主な内容

◇株式会社じほう社の取材内容

株式会社じほう社の取材を受け、メディカル&テストジャーナル紙(8月21日、1626号)に当連盟の今後の計画が掲載されました。



25年参院選へ組織立て直し

日技連 年度内にも組織内候補

日本臨床検査技師連盟は2025年の次期参院選に向け、政治団体としての立て直しを図る。 幅広い層の臨床検査技師に対し、職域の充実発展や社会的地位向上につながる政治活動への 理解を求めるアプローチを拡充し、加入口数の増加につなげたい考えだ。今年度からは日本 診療放射線技師連盟との間で、共通課題への対応で必要な協調体制を話し合う体制も整えた。 次期参院選の組織内候補の公募などは今秋にも始め、年度内にも会員から候補者を決定する。 選挙に備えた関係団体への協力要請も本格化させたい計画だ。



直近で1975口まで減少

1998年発足の日技連は、加入口数の変動が激しく、最も多かった2000年の6359口から団塊世代の離脱等で2013年には1524口まで減少。宮島喜文氏(日本臨床衛生検査技師会長)の参院選初当選前の2015年に6085口まで伸ばしたものの、会費値上げやコロナ禍での活動停滞等を背景に、宮島氏が公認辞退に至った2022年7月参院選の際には2334口、直近では1975口まで落ち込んでいる。日臨技の会員数が約7万人まで伸び続けている一方で、全体の3%にも満たない組織率は、他の医療職種連盟に比べて非常に低く、政治団体として活動活性化できるかが大きな課題になっている。

日技連は今後、都道府県や支部ブロックを通じ、都道府県臨床検査技師会や日臨技支部学会・会合で、政治連盟の意義を丁寧に説明する機会を増やすなど、加入促進の活動に重点を置く。現在の会費値下げ等も検討課題になるほか、特に若い世代の理解を得るためのYouTubeやX(旧Twitter)などを用いた情報発信の方法も探る計画だ。自民党「臨床検査に関する制度推進議員連盟」(衛藤征士郎会長)の活動を、日臨技や日技連が求める制度改正等につなげるため、長沢光章代表による関係議員へのロビー活動も6月から本格化させている。

また、日臨技と日技連は今後、日本衛生検査所協会など日本臨床検査振興協議会加盟団体との連携だけでな

く、日本診療放射線技師会(上田克彦会長)、日本診療放射線技師連盟(芳士戸治義理事長)との間で、職能団体、政治団体としての定期会合を開くことでそれぞれ合意した。共通する課題やその対応で足並みをそろえた活動の必要性も会合のテーマになる見通しで、組織内候補擁立での協調路線も探っていく可能性もある。

長沢代表 「議員出す機運を」

日技連の長沢代表は本紙取材に対し、「連盟のスローガンは『臨床検査現場の声を政治に届ける』だ。検査技師業務に影響するさまざまな法改正などの要望を、国会に伝えるためには日技連の活動や、政治家の協力が何よりも重要になる」と強調。その上で「正直、政治への関心が低い実態もあるが、これから活躍していく世代の方には、検査技師という職域の充実発展や、社会的な地位向上に向けた未来をぜひ考えてみてほしい。そのためにも政治連盟の意義をしっかり理解していただきたいし、その先にある日技連で国会議員を出すという機運につなげていきたい」と呼びかけた。将来的には「日臨技会員の半分程度、3万5000口くらいを確保しなければ、検査技師の声を恒常的に政策決定の場に届けることはできない」とも語った。

医療コメディカルの資格を持つ国会議員は、日本理学療法士連盟会長等を務めた田中昌史参院議員や、診療放射線技師の資格を持つ畦元将吾衆院議員(厚生労働大臣政務官)などがいる。

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇株式会社じほうが記事利用を許諾しています。

THE MEDICAL & TEST JOURNAL (2023年8月21日掲載) [許諾番号20230911-1]